

特別展覧会

モーツァルト生誕 260 年記念

「モーツァルトの自筆譜(複製)と 著名作曲家たちの自筆書簡」展

ごあいさつ

本学は、開設以来一貫して児童教育、女性教育を中心とした教育に力を注いでまいりました。教育理念の一つである実物教育を積極的に進めるため、世界各地の著名な画家、作家、作曲家等に関する資料や作品などを蒐集保存しています。そして、それらを展示公開することにより、本物の芸術に触れる機会を提供しています。

本年(2016年)は古典派音楽の代表であり、ハイドン、ベートーヴェンと並んでウィーン古典派三大巨匠の一人であるモーツァルト(1756~1791)の生誕 260 年にあたります。これを記念して、本学が所蔵しているモーツァルトの自筆譜「セレナード 二長調 K.185」と、モーツァルトから多大な影響を受けた著名な作曲家たちの自筆書簡を展示公開します。

「セレナード 二長調 K.185」は、1773年7月頃、モーツァルトが17歳の時にウィーンで作曲した全7楽章で構成されているセレナードです。このたび展示する自筆譜は、本学が所蔵している原作品(実物)から紙質、色調などを極めて忠実に複製したファクシミリ版で、第1楽章と最後の第7楽章を公開します。また、リスト(1811~1886)、ワーグナー(1813~1883)、ブラームス(1833~1897)等、モーツァルト没後のロマン派作曲家たちの自筆書簡は、当時の音楽家たちの生活を知ることのできる貴重な資料です。

生誕 260 年を迎えた今日でもなお人々を魅了し続ける偉大な作曲家モーツァルトと、ロマン派の代表的な作曲家たちの世界をぜひご堪能ください。

平成 28 年 7 月 4 日

学校法人東京聖徳学園理事長
聖徳大学学長
聖徳大学短期大学部学長
学園長 川並弘純



モーツァルトの自筆譜(複製) 「セレナード 二長調」(K.185)

「セレナード 二長調 K.185」は、1773年7月頃、モーツァルトが17歳の時にウィーンで作曲した全7楽章で構成されているセレナードです。このたび展示する自筆譜は、聖徳大学が所蔵している原作品(実物)から紙質、色調などを極めて忠実に複製したファクシミリ版で、第1楽章と最後の第7楽章を公開します。ペン書きされたこの楽譜は加筆や訂正が極めて少なく、大変綺麗な自筆譜です。



表紙



第1楽章 1ページと2ページ [前期に展示]



第7楽章 31ページと32ページ(最終ページ) [後期に展示]

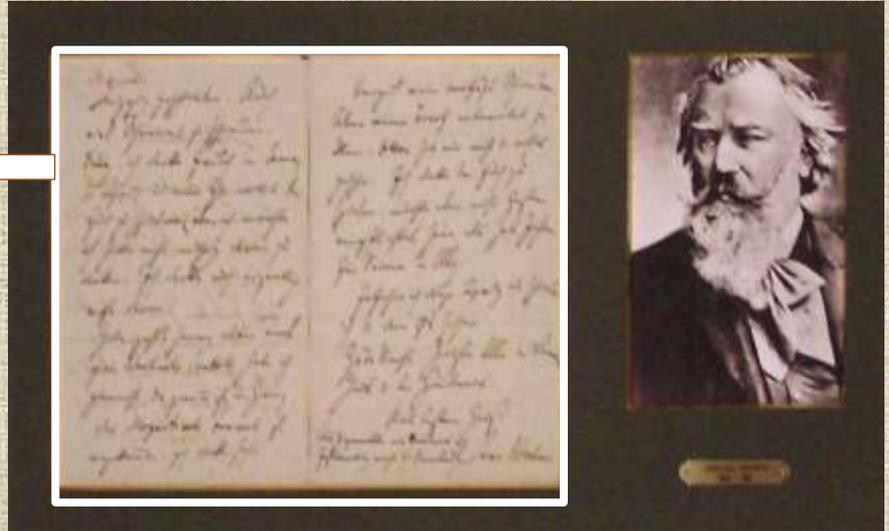
著名作曲家たちの自筆書簡

モーツァルト没後の音楽家で、モーツァルトから影響を受けた作曲家たちの自筆書簡(実物)です。友人、音楽評論家、劇場支配人等に宛てた書簡から当時の音楽家の生活を知ることができます。

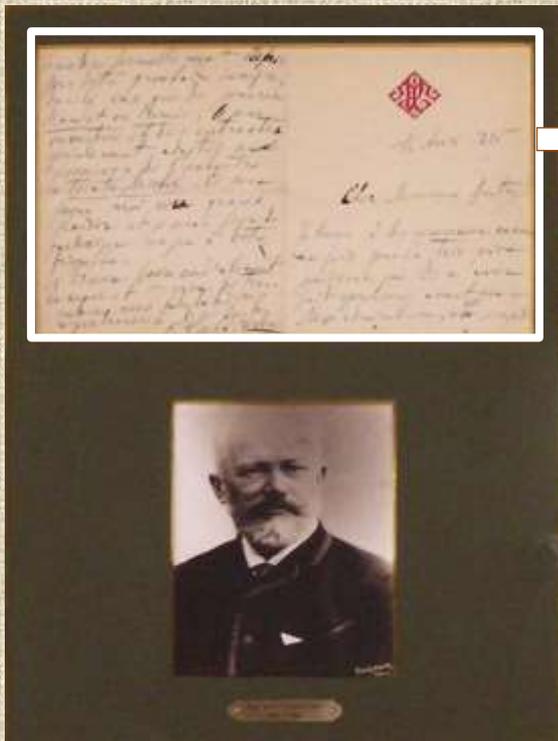


翻訳(冒頭の一部)

親愛なる友へ
君が興奮して手紙をくれたので、取り急ぎ返事を書きます。オッテンは僕に何の連絡もくれません。(彼の妻も誰も)。彼に関する心配は、純粹に僕の想像にすぎません。他のすべてのことがうまく運んでいるなら、これに関してはもう何も言うことはありません。……………



ブラームスの自筆書簡
(ドイツ 1833~1897年)



チャイコフスキーの自筆書簡
(ロシア 1840~1893年)

翻訳(冒頭の一部)

親愛なるギトリイ氏へ
一昨日、あなたの舞台を拝見してとても強い喜びの気持ちを感じましたが、今ここでは是非もう一度お礼を言いたいと思います。あなたの素晴らしい才能に感嘆したり共感を覚える気持ちは、かつてないほど激しく強いものです。この2日間というもの、あなたのことをよく考えてみました。……

《展示する主な作曲家たち》

ベルリオーズ、シューマン、ワーグナー、ブラームス、サン=サーンス、チャイコフスキー、ドヴォルザーク、プッチーニ、ドビュッシー、ラヴェル、バルトーク 等

(展示作品は前期、後期で入替えになります。)



モーツァルト

Wolfgang Amadeus Mozart
(オーストリア 1756年-1791年)

幼いときから神童と呼ばれ、5歳で宮廷付き作曲家であった父レオポルト（ザルツブルグ大司教の宮廷楽団に44年在籍し、副楽長も務めた）からピアノを習い、6歳の時に最初の小曲「メヌエット」を作曲し、8歳の時に交響曲を作曲する。早くから各地の演奏旅行に出かけ、6歳の時にはミュンヘンで選帝侯マクシミリアン3世の前で演奏、続いてウィーンのシェーンブルン宮殿では女帝マリア・テレジア一家を前に演奏した。この時、キスをしてもらうために女帝の膝の上に飛び乗ったとか、転んだモーツァルトを抱き起こしたのは王女マリア・アントニア、のちのマリー・アントワネットであったというエピソードもある。以後、モーツァルトは旅また旅の生活に明け暮れるようになる。



没後に描かれた肖像画

このように各地の演奏で成功を収めた彼は、11歳頃から作曲活動にも手を広げ、オペラ「バスティアンとバスティエンヌ」を発表する。1772年、16歳の時からザルツブルグ宮廷楽団のコンサート・マスターとして雇われるが、それにもかかわらず各地で演奏興行をしていたために、ついに1780年にザルツブルグの大司教に呼びつけられ、辞表を提出する事態となる。この後はフリーの作曲家としてウィーンでピアノ教師、音楽会の開催、作品出版などを主な収入源として生活した。しかし、次第に人気も下火になり、家計も苦しくなる。

1791年には、オペラ「魔笛」の創作に着手する。この作品は匿名で依頼された「レクイエム」、プラハのためのオペラ「ティート帝の仁慈」で中断されながらも初演され、その直後「クラリネット協奏曲」を作曲したが、11月に病で倒れ、「レクイエム」の完成を見ないまま35歳の若さでこの世を去った。

モーツァルトは音楽の世界で古典的形式を整え、新しい器楽形式を確立した。また、完全無比の音楽を創造し、古典音楽の美の神髄を発揮する不朽の名作を数多く残した。ハイドンと並び、古典派音楽の完成者といわれる。

今回展示のセレナードをはじめとして交響曲、協奏曲、室内楽曲、ピアノ曲、オペラ、教会音楽など多岐にわたっている。モーツァルトの作品を整理したケッヘルによれば、その数は626曲に及ぶ。なかでも最大の功績はイタリア・オペラ全盛の中にあって、ドイツに古くから伝わる歌芝居の伝統を生かし、ドイツ・オペラの道を拓いたことであった。オペラ作品として「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」などが知られるが、そのほかにも「交響曲 第40番 ト短調」「交響曲 第41番 ハ長調 《ジュピター》」や「ピアノ協奏曲《戴冠式》」など、著名な作品が多い。

[前期] 平成28年 7月 4日(月)～28年10月15日(土)

[後期] 平成28年12月12日(月)～29年 3月18日(土)

午前9時～午後5時 (休館 毎日曜・祝日と学事日程による休業日)

聖徳大学8号館1階 利根山光人記念ギャラリー

JR常磐線・JR乗り入れ地下鉄千代田線・新京成線とも松戸駅下車、
東口より徒歩5分 (学内に駐車場はありません)